

ひょうごビジョン2050 (案)

兵庫県

目次

第1部 基本事項

| | | | |
|---|----------|-----|---|
| 1 | ビジョンの役割 | ・・・ | 1 |
| 2 | 社会変化の潮流 | ・・・ | 2 |
| 3 | 大切にしたい強み | ・・・ | 3 |
| 4 | ビジョンの基調 | ・・・ | 4 |

第2部 めざす姿

| | | | |
|--------------|------------------|-----|----|
| <2050年の兵庫の姿> | 『躍動する兵庫』 | ・・・ | 5 |
| <5つのめざす社会> | I 自分らしく生きられる社会 | ・・・ | 6 |
| | II 新しいことに挑戦できる社会 | ・・・ | 9 |
| | III 誰も取り残されない社会 | ・・・ | 12 |
| | IV 自立した経済が息づく社会 | ・・・ | 15 |
| | V 地球の持続を先導する社会 | ・・・ | 18 |

第3部 実現に向けて

| | | | |
|---|---------------|-----|----|
| 1 | 基本姿勢 | ・・・ | 21 |
| 2 | 動かす仕組み | ・・・ | 22 |
| | 《参考》9つの地域ビジョン | ・・・ | 23 |

ビジョンの必要性

- 社会が大きく変化中、コロナ禍で様々な課題が浮き彫りに
- 兵庫のめざす姿を指し示す新しいビジョンが今求められている

基本的な性格

- 県民と共になりたい姿を描くビジョン
- 県民が主役になり、地域から取り組むビジョン
- 変化を生み出し、成長するビジョン

展望年次

- 私たちの子や孫が生きる30年先の2050年頃のなりたい姿を描く

県政上の位置づけ

- 県が進める政策の羅針盤として運用

全県と地域

- 全県ビジョンと一体的に、9つの地域ごとの地域ビジョンを策定

(1) 新しいビジョンの必要性

大きな社会変化により先の見通しがますます難しくなっています。コロナ禍は社会の様々な課題を浮き彫りにしました。これから私たちはどこに向かって進んでいけばよいのでしょうか。今後の兵庫のめざす姿を指し示す新しいビジョンが今求められています。

(2) 基本的な性格

①県民と共になりたい姿を描くビジョン

未来は私たちの手で創るものです。現在の延長線上に予測される未来像ではなく、なりたい姿=理想の将来像を提示するのがビジョンの役割です。

新しいビジョンが、県民が共有する望ましい社会の姿を示すものとなるよう、一人でも多くの県民の声を集めることを大切に作り取りまとめました。

②県民が主役になり、地域から取り組むビジョン

多様な主体が共に実現をめざして取組を進めるビジョンをめざします。主役は一人ひとりの県民であり、ビジョンに共感し、兵庫に関わるすべての人々です。

個性豊かな多様な地域からなる兵庫。決して一様ではない、それぞれの地域のめざす姿の実現に向けて、地域から主体的に取り組むことが大切です。

③変化を生み出し、成長するビジョン

作って終わりではなく、成長し続けるビジョンをめざします。問題は未来のために今何をするか。ビジョンを具体的な行動につなげることが大切です。ビジョンの実現に向けたプログラムや行動を生み出す仕掛けをつくり、見直し等にも柔軟に対応します。

(3) 展望年次

理想の実現には長い時間がかかります。私たちの子や孫が生きる社会をより良いものにするために今後何をすべきかを考える拠り所とするため、一世代後の30年先、2050年頃のなりたい姿を描きます。

(4) 県政上の位置づけ

このビジョンは県政の基本指針となるものです。

計画の目標にビジョンのめざす姿を織り込むなど、県が進める政策の羅針盤として運用していきます。

(5) 全県ビジョンと地域ビジョン

兵庫県の強みは地域の多様性です。この強みに磨きをかけるため、県全体の骨太な将来像を提示する「全県ビジョン」と一体的に、9つの地域ごとの将来像と行動目標を示す「地域ビジョン」を策定し、各地域の個性を伸ばす新しい取組につなげます。

2 社会変化の潮流

2050年に向けて考えられる6つの大きな社会変化の潮流

1 人口減少・超高齢化

- 減る人口
- 大都市への人口集中
- 人口の高齢化、伸びる寿命

⇒ 人口が減っても豊かな兵庫をつくる

2 地球からの警鐘

- 気候変動
- 頻発する災害
- 感染症の流行
- 資源の枯渇

⇒ 持続可能な社会づくりを加速させる

3 テクノロジーの進化

- 未来を変えるテクノロジー
- デジタル化する社会

⇒ テクノロジーを暮らしの向上に生かす

4 世界の成長と一体化

- 人口も経済も大きくなる世界
- つながり合い一つになる世界

⇒ 世界とのつながりを地域の活力源に

5 経済構造の変容

- 経済の「非物質化」
- 富の集中と格差の拡大

⇒ 産業を変革し、社会の連帯を取り戻す

6 価値観と行動の変化

- 持続可能性重視
- 所有から利用へ
- 固定から流動へ
- 画一から多様へ

⇒ 新しい価値観・行動様式を根付かせる

< 6つの大潮流 >

今後の社会変化の潮流は大きく6つ考えられます。

1 人口減少・超高齢化

本県の人口は長期的に減り続ける見込みです。その中で人口の偏在化が進み、県民の寿命がさらに伸びて高齢化も進みます。人口減少=衰退のステレオタイプの発想を改め、人口が減少する中でも質の高い豊かな暮らしが営まれる兵庫をつくるのが大切です。

2 地球からの警鐘

地球全体が暑くなり、異常気象の常態化など社会に後戻りのできない変化をもたらすおそれがあります。次の世代によりよい環境を引き継ぐためにも、災害や感染症から身を守るためにも、地球からの警鐘を受け止め、直ちに行動に移すのが大切です。

3 テクノロジーの進化

これからもテクノロジーは、空間・時間・身体の制約を取り除き、私たちの暮らしや社会を大きく変えていくでしょう。新しいテクノロジーのリスクにも配慮しながら、その可能性を豊かな暮らしやより良い社会の実現に活かしていくのが大切です。

4 世界の成長と一体化

世界はアジア、アフリカを中心に今後も成長が続く見込みです。インターネットで世界は一つに結ばれました。古くから海外に開かれた窓として発展してきた兵庫だからこそ、世界との交流を深め、そのつながりを地域づくりの原動力にしていくのが大切です。

5 経済構造の変容

価値の源泉が工場設備などの有形資産から人的資本などの無形資産に移る、経済の「非物質化」が進み、人的投資が企業の将来を左右する時代になります。こうした変化に対応して産業構造の変革を進め、公正で持続可能な経済社会をつくっていくのが大切です。

6 価値観と行動の変化

行き過ぎた資本主義への反動やICTの普及を背景に持続可能性重視、所有から利用へ、固定から流動へ、画一から多様へといった価値観と行動の変化が進んでいます。また、コロナ禍ではつながりの重要性やこれまでの働き方の限界を再認識しました。新たな価値観や行動様式を根付かせ、ポストコロナ時代の新しい豊かさが広がる地域をつくっていくのが大切です。

3 大切にしたい強み

五国の個性

兵庫は、気候風土、歴史文化の異なる旧五国が一つになった県

但馬 中国山地の北、日本海に面し積雪が多い。県最高峰氷ノ山等の山岳、変化に富む海岸線など自然美を誇り、空にはコウノトリが舞う。

播磨 大河が流れる肥沃な播磨平野、豊かな海産物を誇る播磨灘、日本初の世界文化遺産姫路城を擁し、県土の4割を占める広大な地域。

淡路 国生みの島。本州と四国・九州をつなぐ水路の要衝。豊富な日照、温暖な気候で古来より「御食国」と称され、今でも農漁業が盛ん。

丹波 昼夜の気温差、粘土質の豊かな土壌を活かした丹波ブランドの農産物を産出。「都会に近い田舎」として近年移住者に人気。

摂津 古くから世界に開かれた港町神戸を中心に都市文化が花開く。今も多くの外国人が住まう。市街地が広がり県人口の6割が集中。

進取の気風

- 海外の文化を先駆けて受容してきた地域
- チャレンジ精神に富む人材・企業を輩出



摂州神戸海岸繁栄之図

培ってきた地力

- 高度なものづくり産業
- 多彩な地場産業
- 世界有数の科学技術基盤
- 食の宝庫
- 防災先進県



トップシェアを誇る地場産品



個性豊かな食材



SPring-8とSACLA 提供：理化学研究所

(1) 五国の個性

兵庫は、気候風土、歴史文化の異なる摂津、播磨、但馬、丹波、淡路の旧五国が一つになった県です。今に息づく五国の個性が兵庫県の強みです。

多様な個性を持つ地域が関わり合い、補完し合って発展してきた県だからこそ、これからも県内での活発な交流が、兵庫の活力の源泉となるでしょう。

(2) 進取の気風

兵庫には古くは大輪田泊、中世以降は兵庫津と呼ばれる港があり、中国、朝鮮との交易の拠点として栄えました。鎖国下も国内交易の拠点として繁栄し、1868年の神戸開港後は日本を代表する国際貿易港として発展してきました。海外の文化を全国に先駆けて進んで受け入れてきた「進取の気風」が兵庫県の特徴です。

こうした地域性が、伝統的な価値観や固定観念に縛られずに新しい課題に挑むチャレンジ精神や柔軟性に富む人材、企業を育み、世界へ送り出してきました。

(3) 培ってきた地力

①高度なものづくり産業

阪神・播磨臨海部を中心に基礎素材型や加工組立型の高度な製造業が分厚く集積しています。

②多彩な地場産業

清酒、素麺、皮革、鞆、線香、釣針など全国トップシェアを誇る産業や、ケミカルシューズ、播州織、三木金物、淡路瓦など著名な産地があり、約40もの多彩な地場産業が県内各地に根付いています。

③世界有数の科学技術基盤

スーパーコンピュータ「富岳」と大型放射光施設SPring-8、X線自由電子レーザー施設SACLAという世界有数の先端科学技術基盤を擁し、計算科学と光化学を中心にした知的創造拠点が形成されています。

④食の宝庫

北は日本海、南は瀬戸内海、太平洋に面する兵庫。気候風土の異なる多彩な土地で育まれた神戸ビーフ・但馬牛、山田錦、丹波黒、たまねぎ、シラス、ホタルイカ、ノリなど個性豊かな食材は、兵庫発のブランドとして国内外で高く評価されています。

⑤防災先進県

阪神・淡路大震災と、その後の度重なる災害を経験し、兵庫は安全で豊かなまちへと進化を続けてきました。兵庫が培ってきた防災・減災の知恵と技術は世界中の安全を守るために生かされています。

4 ビジョンの基調

県民の期待

- 多様な価値を認め、変化に柔軟に対応できる社会を
- 自分なりの生き方が選択できる自由度の高い社会を
- 「競争」よりも共に歩む「包摂」を
- 「効率」よりも持続する「循環」を

キーワード 「開放性」

- 県民の想いに共通するのは、「開放性」の高い社会への強い願い
- 「開放性」は兵庫ならではの強みであり、今後も伸ばすべき特性
- 今求められているのは「開放性」を徹底した社会の姿を示すこと

<県民の期待>

多様な価値を認め、変化に柔軟に対応できる社会を

社会が変化し、これまでとは異なる価値観が生まれています。新しい価値観を受容し、認め合う中から、時代の変化に柔軟に対応できる社会をつくっていく必要があります。新しい考え方やテクノロジーを取り込み、どんな課題に対しても、常識にとらわれず、創造的に乗り越えていける地域が求められています。

自分なりの生き方が選択できる自由度の高い社会を

コロナ禍でこれまでとは違う暮らし方、働き方があることに多くの人が気付きました。人生の可能性を広げるために、様々な制約を取り払い、もっといろんな生き方ができる社会をつくっていく必要があります。多様な選択肢の中から自分なりの道を選び取っていきける自由度の高い社会が求められています。

「競争」よりも共に歩む「包摂」を

行き過ぎた個人主義、能力主義の中で格差が広がり孤立が生まれています。共感を生む道具としてICTを生かしながら、助けが必要な人に寄り添い、伴走する社会をつくっていく必要があります。人と人との確かなつながりが育まれ、誰も取り残されない、すべての人を包摂する地域が求められています。

「効率」よりも持続する「循環」を

地球の危機に向き合い、持続可能な社会づくりを加速させる必要があります。都市と多自然地域が共存する兵庫は、その実践を行う絶好の場所です。食料・エネルギーの自給、お金とモノが域内で巡るローカル経済圏の形成などを通じて、循環型の暮らしと経済を地域に根付かせることが求められています。

<キーワードは「開放性」>

こうした県民の想いに共通するのは、今よりも「開放性」の高い社会をつくりたいという強い願いです。

物理的にも精神的にも「壁」のない社会。属性に関わらず一人ひとりの可能性が開ける社会。価値観の違いを超えてつながり合う、開かれた社会。そうした社会の姿を描き出すビジョンが求められています。

「開放性」は兵庫本来の強みでもあります。交流の結節点として栄え、進取の気性を持つ人材を生み出してきた兵庫ならではの物語を、これからも紡いでいけるよう、開放性を徹底した先にある兵庫の姿を示す。その実現に向けてオープンな姿勢で取り組む。「開放性」が根底に流れるビジョンを描きます。

2050年の兵庫の姿

誰もが希望を持って
生きられる
一人ひとりの
可能性が広がる
『躍動する兵庫』

I 自分らしく生きられる社会

- ① 自由になる働き方
- ② 居場所のある社会
- ③ 世界へ広がる交流

II 新しいことに挑戦できる社会

- ④ みんなが学び続ける社会
- ⑤ わきあがる挑戦
- ⑥ 新しい文化の創造

III 誰も取り残されない社会

- ⑦ みんなが生きやすい地域
- ⑧ 安心して子育てできる社会
- ⑨ 安心して長生きできる社会

IV 自立した経済が息づく社会

- ⑩ 循環する地域経済
- ⑪ 進化する御食国
- ⑫ 活動を支える確かな基盤

V 地球の持続を先導する社会

- ⑬ カーボンニュートラルな暮らし
- ⑭ 分散して豊かに暮らす
- ⑮ 地球の持続に貢献する産業

<2050年の兵庫の姿>

2050年頃までに実現をめざす兵庫のなりたい姿は、「誰もが希望を持って生きられる 一人ひとりの可能性が広がる『躍動する兵庫』」です。

「誰も取り残されず、みんなが希望を持って生きられる」という意味での「包摂」と「思い思いのチャレンジができ、一人ひとりの可能性が開ける」という意味での「挑戦」、この2つを車の両輪にして「躍動する兵庫」を実現していきます。

<5つのめざす社会>

I 自分らしく生きられる社会

新しい価値観が広がり、より自由な暮らし方、働き方を求める人が増えています。多様な選択肢の中から自分の意思で未来を選び取れる社会になっています。みんなに居場所と役割がある地域、国内外との活発な交流が行われる地域になっています。

II 新しいことに挑戦できる社会

寿命が伸び、何を大切に生きるのかを多くの人が自問するようになります。いろいろな経験ができ、一人ひとり異なる人生の道筋を描ける社会になっています。教育の形が変わり、生涯を通じて学び続け、新しいことに挑戦し続ける人が増えています。

III 誰も取り残されない社会

どんなにテクノロジーが進化しても、最後に大事になるのは、人とのつながりであり、人の温かみです。過剰な効率化や競争の中で見過ごされてきたつながりの大切さが再認識され、誰も取り残されず、最期まで安心して暮らせる社会になっています。

IV 自立した経済が息づく社会

世界を覆うデジタル経済、広がるシェアリングエコノミー（共有経済）。そうした中で持続可能な経済社会をつくる取組が進められています。地域に根付くものづくり産業を中心に、食、農、エネルギー、文化など生活に密着した産業が成長し、地域の中でお金が循環する自立的な経済圏が形成されています。

V 地球の持続を先導する社会

資源循環やエネルギー自立の取組が進められ、カーボンニュートラル（炭素中立）な暮らしが根付いています。自然に囲まれた生活を志向する人が増え、兵庫の多様な地域性を活かした豊かな暮らしが各地で営まれています。人類の持続可能性を高める産業が県内に集積し、新しい基幹産業となっています。

「いろいろな働き方を自分の意思で選ぶことができ、 自分なりの役割を見出せる社会」

例えば

- 自分らしい働き方を追求する人が増える
- ライフスタイルに合わせて働く場所と時間を選べる
- 複数の仕事を組み合わせて生きる人が増える
- 場所や組織にとらわれない生き方が広がる
- 複数の場で活躍する人が増え、社会の中に自分の役割がある

(1) めざす姿

- 自分らしい働き方を追求する人が増えています。稼ぐことよりも好きなことを大切にする人が増え、仕事にやりがいを強く求めるようになっていきます。好きなことを強みに自分なりの活動をする人が、社会に価値を生み出しています。
- 社会のデジタル化に伴い、働き方の自由度が高まっています。仕事内容やライフスタイルに合わせて働く場所と時間を自由に選べる働き方が主流になり、仕事の生産性と生活満足度が共に高まっています。雇用形態による不合理な待遇差もありません。
- 雇用が流動化し、終身雇用、年功序列のサラリーマン社会を生きる人は少数派になっています。組織に属さず、個人事業主として生きていく人が増え、人それぞれに複数の仕事を組み合わせて経済的な自立をめざす姿が広がっています。セーフティネットや職業訓練の仕組みが整い、安心して暮らせます。
- 仕事が住む場所を決める時代は終わり、人生のステージに応じて住む場所を変える暮らし方が広がっています。場所や組織にとらわれることなく、旅するように生きる人が増えています。

- ボランティア活動や地域活動など仕事以外に複数の場で活躍する人が増えています。誰もが社会の中に自分なりの役割を見出し、時間を使い分けながら、それぞれの場で誇りを持って活動しています。

(2) 取組の方向性

- 多様な働き方の推進（テレワークや副業の一般化、働く時間と場所の自由化、所定労働時間の短縮、週休3日制の導入、サバティカル休暇（使途に制限のない職務を離れた長期休暇）の導入等）
- あらゆる業種におけるサテライトオフィス、シェアオフィス、コワーキングスペースの利用拡大
- フリーランスとして安心して働ける労働環境の整備
- 不本意な非正規雇用者等の就業機会の創出

「人生100年時代」を先取りする

人の寿命は今後も伸び「人生100年時代」に近づきます。70代でも働く人が増える一方、手持ちのスキルで生きていくのが難しくなり、絶えざる学び直しが必要になります。教育⇒仕事⇒引退の3ステージの人生は崩れ、学びを繰り返し、仕事は複数の選択肢を持つことが大切になります。終身雇用モデルから脱却し、教育やキャリア形成のあり方を見直す必要があります。

「みんなに人とつながれる居場所があり、 孤独を感じないで暮らせる社会」

例えば

- 人とつながれる居場所が地域にある
- 共同生活のスタイルが広がり、孤独を感じずに暮らせる
- 共通の趣味や関心で結ばれた多様なコミュニティが広がる
- 属性を超える活発な交流が地域を越えて広がる
- 多様な非営利組織が住民による自治の拠り所に

(1) めざす姿

- 自宅や職場、学校だけでなく、緩やかに人とつながれる心地良い居場所（サードプレイス）が身近な地域にあり、気の向くままに訪れても誰かがいて、同じ時間を過ごせます。
- 地域に様々な集い場があり、遠くの家族、友人とも仮想空間で気軽に出会えます。共同生活のライフスタイルが広がり、シェアハウスやグループホームでつながりを感じながら楽しく暮らす人が増えています。近くに身寄りのない单身者も、人とつながり、孤独を感じずに暮らしています。
- 共通の趣味や関心事、悩み事などで結ばれた多様なコミュニティが広がっています。コミュニティの存在が可視化され、人々はリアルに、あるいはバーチャルにそれらのコミュニティに関わり、居場所と役割を見出しています。地域をより良い場所にするための取組に多くの人が参加しています。
- 属性を超えた活発な交流が地域を越えて広がっています。多様な人々との交流とそこから生まれる温かい人間関係が暮らしの質を高めています。
- 地域自治組織やスポーツクラブ、NPOなど多様な

非営利組織が、人が集まり、それぞれの人がやりたいことをやる居場所になっています。それらが地域の課題に自主的に取り組む開かれた活動の拠点となり、住民による自治の拠り所となっています。

(2) 取組の方向性

- 好きな居場所を自由に選べる多様な居場所づくり
- 共同居住型賃貸住宅（シェアハウス）の整備促進
- 公民館など地域の拠点施設の再生・活用
- 多様な層の地域運営組織の再構築と運営の見える化
- 社会教育士など地域のファシリテート人材の育成
- 身近な生涯学習の場づくり（サイエンスカフェ等）
- 孤独・孤立対策の強化

「社会的孤立」を防ぐために

家族や社会との関係が希薄で、他者との接触がほとんどない「社会的孤立」が大きな問題となっており、高齢単身世帯の増加で、今後さらに増える可能性があります。社会的孤立は自殺、孤立死、犯罪、薬物依存、ゴミ屋敷など様々な社会問題につながることから対策が必要です。身近な居場所づくりや小さな地域単位の見守りのネットワークを築く必要があります。

地域自治組織やスポーツクラブ、NPOなど多様な

「五国の多彩な魅力が人を惹きつけ、 国内外との双方向の交流が活発に行われる社会」

例えば

- 五国の個性に磨きがかかり、国内外からの来訪者が増加
- 海外の企業と人材を呼び込み、外国人が生き生きと活動
- 外国人と共に働き、学び、暮らす社会に
- 兵庫の人材、企業が続々と海外に進出
- 世界中の国々と双方向の交流が深まる

(1) めざす姿

- 摂津、播磨、但馬、丹波、淡路の五国の個性に磨きがかかり、子どもから大人まで、自らの地域に対する誇りと愛着が強まっています。地域の魅力が世界に発信され、国内外からの来訪者が増加し、兵庫を楽しんでいます。
- 海外の企業と人材を呼び込む地域になっています。留学生や実習生、県内に拠点を構える外国企業で働く人が各地で生き生きと活動し、生活しています。文化や宗教の違いを超えて、外国人と共に働き、学び、暮らす社会になっています。
- 外国人と一緒に働き、学び、暮らす経験を通じて、世界の広さや面白さに気付く県民が増えています。「ダイバーシティ」の大切さを理解し、実践する住民の力で地域社会が活気づいています。
- 多彩な知見や技術を持つ兵庫の人材、企業が続々と海外に進出しています。防災、医療、環境、農業などの得意分野で世界の課題解決に貢献しています。
- 世界に目を向ける教育が行われ、世界中を行き来する人が増えています。様々な国・地域と関係を持つ兵庫人が架け橋となり、国内はもちろんのこと、世界中の地域と双方向の交流が深まっています。

(2) 取組の方向性

- 地域資源の掘り起こしと編集、世界への発信
- 体験型ツーリズムのコンテンツの多様化と質の充実
- 地域ならではの街並み景観や自然景観の形成
- 外国人にも選ばれるまちづくり（就労環境や居住環境の向上、医療、教育その他生活支援サービスの多言語サポート体制の整備、日本語教育・母語教育の体制整備、学校教育での外国人子弟受入拡大等）
- 県内企業の海外進出支援
- 留学生の受入拡大と県内企業への就職促進
- 世界で活躍できる人材の育成と海外留学の拡大
- 防災、医療、環境、農業等の国際協力の拡大

活力を生む「ダイバーシティ」

社会の活力の源泉として「ダイバーシティ」への注目が集まっています。「多様性」という意味の言葉ですが、単に多様であるだけでなく、互いの違いを認め合い、受容することまで含めた言葉と捉える必要があります。異なる文化や価値観を持つ外国人と一緒に働き、暮らす「ダイバーシティ」に富んだ地域をつくる取組は、兵庫に新たな活力をもたらすでしょう。

「子どもの個性を伸ばす教育が営まれ、 大人になってからも学び続けられる社会」

例えば

- 一人ひとりの意思と個性が尊重される
- 子どもの個性を伸ばす学校教育・家庭教育
- 社会全体が学びの場として活かされる体験教育
- 多様な選択肢の中から自分にあった場で学べる
- 誰もが学びたいときに学びたい場所で学べる

(1) めざす姿

- 思い込みを自省し、決めつけを自制できる大人が増え、一人ひとりの意思と個性がもっと尊重される社会になっています。答えのない時代を生きるのに必要な自発性や創造力を育むため、学校ではオンライン授業や個別学習のツールも活用しながら、対話型の教育が行われています。教員も親も一人ひとりの子どもの個性を伸ばすことに注力しています。
- 自然、文化、産業等の実物に触れる直接体験の機会が充実し、社会全体が学校のようになっています。デジタル技術で直接体験に近い形で多様な体験ができるようになり、経験の幅を広げています。
- 地域に多様な学びの選択肢があり、子どもたちは自分に合った場で安心して学ぶことができます。都市と多自然地域の子ども同士の交流や、各々が互いの学校で自由に学べる環境も整っています。
- 誰もが学びたいときに学びたい場所で学ぶことができ、新たな知識や技能を身につけられる環境が整っています。年齢を問わず、新しいことを学び続け、新しいことに挑戦し続ける人が増えています。
- 身近な地域にいろんな学びの場が広がっています。

誰もが先生、生徒になり、あらゆる場が学びの場となり、暮らしに役立つ知識や趣味に関わることまで多様なテーマの学びに誰もが参加しています。

(2) 取組の方向性

- オンライン教育の推進
- 一人ひとりにあわせた学習の推進
- 探求型の授業の実践
- 地域と学校の連携による体験教育の充実
- 学校以外の学びの機会の確保
- 都市と多自然地域の学校の交流促進
- 大人の学び直し（リカレント教育）の拡大
- 職業訓練施設等の能力開発施設の充実
- 地域におけるテーマ型の学びの場の充実

VUCA（ブーカ）時代を生き抜く人材

VUCA（V=Volatic：不安定、U=Uncertain：不確実、C=Complex：複雑、A=Ambiguous：曖昧）の時代には、与えられた問題を解決する力よりも、問題を発見する力が求められます。

注目される「心理的資本」

自己効力感や楽観主義、希望、困難を乗り越える力などに表れ、適切に経験を与えられれば伸ばせる資本であり、企業の競争優位を決定する資本として近年注目されています。

「アイデアを形にする実践が無数に行われ、 新しいチャレンジが次々と生まれる社会」

例えば

- ▶ 起業をめざす人材が国内外から集まる
- ▶ スモールビジネスに挑戦し、地域課題を解決
- ▶ 分厚い非営利活動、広がる寄付文化
- ▶ 何度でも挑戦できる環境が整う
- ▶ 自分なりの課題を持って、新しい活動に取り組む

(1) めざす姿

- いろいろな実験ができる地域の多様性と、伴走型の支援を受けられる環境の魅力で、起業をめざす人材が国内外から兵庫に集まっています。人が人を呼ぶ好循環が生まれ、地域の人々に応援されながら、多くの人が新しい課題に挑戦しています。
- 誰もが趣味の延長や身近な課題の解決で小さな起業に挑戦しています。カフェや地場産品を用いたアクセサリー製作、子育て支援など、地域の魅力向上や課題解決に貢献しています。
- 兵庫が非営利活動のメッカになっています。福祉や子育て、文化やスポーツ、環境保全など、幅広い分野でボランティアな活動が盛んに行われ、その中で多くの県民が役割を担い、楽しく活動しています。
- 様々な民間非営利団体の活動が活発になる中で、それらの活動を応援する寄付文化が広がっています。
- 失敗を貴重な経験として評価する社会になり、何度でも挑戦できる環境が整っています。失敗がペナルティになることがなく、再挑戦するとき資金面の支援などで不利になることがありません。
- 自ら価値をつくり出す起業家マインドを醸成する教

育が行われています。自分で作ったものを売ったり起業プロジェクトに参加したりと、子どもや若者にも多くの実践の機会が提供されています。

- 誰もがより良い生き方を追求しています。スポーツやアウトドア、歴史文化、食など自分なりの課題を持って、新しい暮らし方や学びに挑戦しています。

(2) 取組の方向性

- スタートアップの誘致、人材育成支援の充実
- 先輩起業家等による伴走型支援
- 起業や社会課題の解決を支援するファンドの創設
- 小さな起業を応援する支援制度の充実
- 民間非営利団体の活動支援
- 寄付文化の醸成
- 再挑戦を可能とする環境整備
- 起業家マインドを育てる教育の充実
- テーマ型コミュニティの形成
- 生涯学習拠点の充実

地方でのビジネスの広がり

地方の課題をビジネスアイデアの源とし、高齢者向けサービス、空き家・空き店舗の活用、農や自然などの体験型ツーリズムなど、様々なスモールビジネスが広がっています。

「文化が暮らしの中心にあり、新しい文化を創る 多彩な活動が展開されている社会」

例えば

- ▶ 文化的な活動の量と質を地域が競い合う時代に
- ▶ 多彩な表現活動が暮らしに彩りと刺激を与える
- ▶ 世界を魅了する新しい文化を創造
- ▶ 芸術文化を活かした多彩な教育プログラムを展開
- ▶ 先端的なアートやデザインに挑む人々が集まる

(1) めざす姿

- スポーツや食も含む幅広い意味での「文化」を暮らしの中心に据える県民が増えています。文化が地域の活力と豊かさに大きな影響を与え、文化的な活動の量と質を地域が競い合う時代になっています。
- 多くの人が生活の中で創作、発表、鑑賞を楽しんでいます。多彩な表現活動が県民の暮らしに彩りと刺激を与え、人々の感性や創造性を高めています。
- 地域に様々な芸術文化の拠点があり、個性的な創造集団が活躍しています。芸術文化の盛んな地域としてのブランドイメージが定着し、兵庫が世界のアーティストの憧れの場所となっています。
- 国内外の新たな担い手を巻き込みながら、培われてきた伝統と、新たな切り口を持った革新が融合し、世界を魅了する新しい文化が生み出されています。
- 演劇的手法を使ってコミュニケーション能力を高める授業など、演劇、音楽、美術等の芸術文化の知見を活かして子どもの主体性や表現力を養う多彩なプログラムが学校教育の中で展開されています。
- 芸術、映画、ゲーム、ファッションなどの体験価値を提供するクリエイティブ産業が県内に育っていま

す。先端的なアートやデザインに挑む人々が兵庫に集まり、新たな価値を創出しています。

(2) 取組の方向性

- 図書館やスポーツ施設等の充実
- 芸術文化活動の支援
- 芸術文化活動拠点の充実
- 芸術文化の世界への発信
- 地域の芸術文化拠点の充実
- 伝統文化を継承する担い手の育成・確保
- 学校教育でのアートやデザインの授業
- 演劇的手法を使った教育の推進
- アートやデザインを学べる機会の充実

芸術文化の4つの意義

- ① 人に楽しさや感動、安らぎ、生きる喜びをもたらす。豊かな人間性、創造力、感性を育む。
- ② 地域の特性や歴史の中で生まれ、地域の個性を形成する核となり、地域コミュニティの一体感や連帯感を醸成。
- ③ 民族や言語、宗教等の壁を越えて、世界の人々との対話・共生を進めることに貢献。人類共通の感動体験が、相互理解や共生の基盤となり、異質なものに対する寛容な心を醸成。
- ④ 新しい産業の振興や既存産業の高付加価値化。